

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	IPPO ジュニア		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 13日	～	令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 13日	～	令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムについて、常に職員全員でよりよい内容を実施するための話し合いを行っていること。 また、それに対する振り返りを日々行っていること。	主となる担当者を選任し、その内容に対して職員全員で話し合いを行い入念に準備を行っている。 また、その取り組みに対して毎日振り返りを行うとともに、活動プログラムについての意見交換する機会を別途月に1,2回程度設けている。	資質向上研修やモチベーション研修を通じて、職員全員が資質向上について真摯に向き合えるような体制づくりを行う。
2	療育スペースが広く確保されていること。	広さを確保したうえで、児童がより快適でスムーズに行動できるのかを常に考えている。大きな備品の配置だけでなく、細かな備品の配置にも目を配り、動線をシンプルにわかりやすくすることで広さを確保している。	今後も、最善の室内環境は何か、今よりいいものはないかを常に考え行動する。 また、見える場所の備品については必要最低限とし、児童にとってわかりやすい配置を心掛ける。
3	職員に対して、資質向上のための知識・支援技術研修を定期的に行っていること。	管理者が中心となり、月に1,2回程度資質向上のための研修を行っている。 支援スキルのみならず社会人基礎力の研修等、幅広い内容で実施している。	拝聴型の研修だけでなく、参加型の研修を多く取り入れることで、自発的に学びに向かう姿勢を育む取り組みを行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の関係機関との連携が少ないこと。	自立支援協議会への参加ができていないこともあり、学校や相談支援事業所、併用している放デイ事業所の方との連携が少ないと感じている。	自立支援協議会をはじめ地域の活動に対して、積極的に参加するとともに、多角的に情報共有しながら資質を向上させる。
2	社会プログラムの実施ができていないこと。	安全面への配慮が必要なため、社会見学等への外出はできていない。 通常プログラムとは違った活動で、新たな発見や興味のきっかけにつながる可能性があるため、社会プログラムの導入は必要だと考える。	引き続き、安全面の対策を慎重に行うとともに、地域のボランティア団体との連携を図ったり、可能な範囲で外出プログラムを検討する。
3	専門的な支援の実施ができていないこと。	支援の質向上には、専門的なアプローチが必要不可欠であるが、現状十分ではないと感じている。	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師と連携しながら、通常プログラムの進行方法を変更を検討する。 また、現行の方法を継続しながら各専門職員の意見も取り入れたプログラムの再構築についても検討を行う。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		IPPO ジュニア				公表日		2025年 3月 3日		
						利用児童数	27名	回収数	18名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	0	0	0		引き続き、十分に活動スペースを確保したうえで、お子様がより過ごしやすい環境づくりを検討する。		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	14	3	0	1	職員の数は足りているが、支援が足りないと思うことがあった。 →今は改善されていると思う。	職員数の確保、職員の支援スキル向上のための取り組み、円滑な業務遂行の仕組みづくりを行う。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	0	0	0		壁やパーテーション、視覚支援ボードを活用し、引き続きお子様がより過ごしやすい環境をつくる。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	0	0	1		清掃および整理整頓を徹底し、お子様が落ち着いて過ごせるような空間づくりを心掛ける。		
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16	1	0	1		より専門的な支援が提供できるよう、日々の振り返りや情報共有、職員研修を行う。		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1	0	2		保護者の方が普段の様子をイメージしやすいよう、公表プログラムに沿ったプログラムを実施する。		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	0	0	0		引き続き、お子様や保護者の方から意見を頂戴し、職員間で情報共有を行ったうえで個別支援計画を作成する。		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1	0	1		引き続き、職員間で情報共有を徹底したうえで個別支援計画を作成する。 また、保護者の方への説明についても書面を用いてわかりやすく説明を行うよう努める。		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16	1	0	1		個別支援計画の作成時に保護者の方へ丁寧に説明し、日々の支援内容について保護者の方へ細かく情報共有を行う。		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15	1	0	2		お子様が楽しく参加できる内容を立案する。適宜、Instagramや写真・動画等を用いて、視覚的に取り組みを伝える。		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1	3	9	地域に根付いた活動も増えたら嬉しい。	出張ボランティアの受け入れや地域のイベントに参加できる機会を検討する。		
保護 者へ の 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17	1	0	0		契約時に、書面を用いて説明を行っている。引き続き、丁寧な説明を心掛ける。		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	1	0	0		個別支援計画の書面を用いて、具体的な支援内容を挙げながら、わかりやすく説明するよう努める。		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7	3	5	3	家族も参加できる研修会や交流会をぜひしてほしい。	保護者の方との情報共有ができる場を設けられるよう、検討を行う。		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達について共通理解ができていると思いますか。	16	2	0	0		送迎時の情報共有や、必要に応じて連絡をとらせていただきながら、お子様の共通理解ができるよう努める。		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13	4	0	1		適宜、保護者の方との面談を行い、日々の情報共有やご意見を頂戴できる機会を増やす。		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	1	0	0		日々の情報共有を通じて、お子様および保護者の方と共通理解できるよう努め、共感的に支援を行うことを徹底する。		
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	6	6	参観日や交流会をしてほしい。	保護者の方に見ていただけるイベントの実施や、きょうだいの方との交流がもてる場を検討する。			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	1	0	0	相談があった際には、事業所職員に迅速に情報共有を行う。また、必要に応じて会社へ報告を行い、速やかに改善策および今後の防止策をたてる。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	17	1	0	0	口頭での情報伝達のみではなく、書面やIT機器を活用するなど視覚的および多角的に情報伝達が行えるよう配慮する。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	0	0	2	今後もホームページやInstagramにて定期的に日々の活動概要を伝える。自己評価結果については、年1回公表を行う。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	0	0	0	個人情報と呼ばれる書類はすべて鍵付き書庫にて保管し、必要時以外は書庫を施錠する。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1	0	2	各種マニュアルについて再度保護者の方への周知を行い、有事の対応についても共通認識ができるよう努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	0	0	4	年2回実施している。訓練を実施した際は、ホームページやInstagramにて保護者の方へ情報共有を行う。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	1	0	1	安全確保計画に基づいた研修や訓練を通じて、日々安全を確保したうえで支援を行うよう努める。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	0	0	1	緊急を要すると判断したものは発症時に保護者の方へ連絡し、その他の傷病については送迎時および電話にて伝える。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	17	1	0	0	常に、環境整備および支援スキル向上についての意識をもって支援を行う。日々いろいろな刺激を受けながら成長しているお子様のことを理解し、その瞬間に必要な支援を判断し、臨機応変に対応できるよう心掛ける。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16	2	0	0	また、保護者の方との情報共有を綿密に行い、それぞれのお子様にとって適切な支援の提供に努める。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16	2	0	0	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		IPPO ジュニア		公表日		2025年 3月 3日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	指定基準に則った広さを確保しつつ、プログラムの内容やグループ分けなどを工夫して、安全面への配慮に努めている。	広さを確保しつつ、児童が過ごしやすい空間づくりおよび改善案を常に考える。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	指定基準に則った数の職員を配置し、安全に見守るよう努めている。	送迎が重なった場合等、療育の質の観点から不足していると感じることがあるため、職員配置ならびに支援スキルの向上に努める。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	支度ボードや日課表の視覚的な掲示によって見通しや自立につながるような環境設定をしている。	お子様の状況や周囲の環境によって、お子様に最適な支援方法が随時変化するため、詳細を適宜把握しながら支援を行う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1	業務ボードを活用し、毎日の整理整頓に努めている。また、随時職員会議を行い、活動に合わせた生活空間をつくっている。	生活空間は常に心地よく過ごせる場所である必要があるため、引き続き整理整頓および環境整備の話し合いを適宜行う。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	4	完全に隔離された部屋はないが、職員と個別で離れた場所に移動し、お子様の思いを聞いたり、休息できる時間を設けている。	パーティションの導入等、児童の安全性を確保したうえで落ち着ける環境を整備できるよう話し合いを行う。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	朝礼にて業務内容を確認したり必要に応じて意見交換を行っている。また、定期的な職員面談によって職員の目標設定も行っている。	目標設定に対する振り返りの機会が充分であるとは言えないため、今後はPDCAサイクルに則った業務改善を徹底する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	年度毎に事業所評価アンケートを配布し、その集計結果を分析、職員に共有するとともに業務改善に努めている。	評価表については年1回のみのため、実施頻度の増加もしくは日常の情報共有を引き続き徹底することで保護者等の意向を把握する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	職員会議を週1,2回実施し、職員の意見を把握する機会を設けている。また、必要に応じて個別で業務改善の話し合いを行っている。	職員間の共通認識を図るためにも、今後も定期的に職員会議を行い、職員の意見を把握する機会を確保する。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	2	第三者委員会の設置はないが、法人内で情報共有を随時行い、偏った情報で運営されないよう工夫をしている。	今後は、第三者委員会の設置を検討し、今以上に風通しのよい事業所運営に努める。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	事業所内研修（月1,2回）および法人内研修（年1,2回）を実施している。また、資質向上を図るための職員面談も行っている。	研修受講だけでなく、議題に対する意見交換の場を設けるなど、能動的に参加できるような研修を実施する。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	職員会議で支援プログラムを作成し、ホームページで1日の流れや専門プログラムの内容・意義を公表している。	公表用の支援プログラムは未作成のため、適切なものを作成し、完成次第公表および報告を行う。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	契約前にアセスメントを実施し、ニーズや課題の把握に努めている。また、放課後等デイサービス計画の更新時には保護者の意見を聴取して作成している。	さらに児童および保護者の方のニーズや課題を把握するため、アセスメントシートを定期的に更新するとともに職員全員で作成した計画を共有する。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	児童発達支援管理者が作成したものを職員会議で周知し、その計画および支援方法の共通理解に努めている。	職員会議の頻度を増やすことで、より多くの内容について話し合い、児童や保護者の方の最善の利益について検討する。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1	作成された放課後等デイサービス計画を職員全員で共有し、適宜意見交換を行ったうえで支援プログラムを設定している。	意見交換の頻度が十分であるとは言えないため、定期的にカンファレンスおよび職員会議を行うように計画を立てる。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	3	ノートやPC等を活用した事業所独自の様式で日々の様子を記録している。適宜、様式の修正を行い適切な情報管理に努めている。	定期的に確認は行っているが、その頻度は十分でないと感じるため、さらに計画的に会議を行い情報共有の場を確保する。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	職員全員で計画書原案の確認を行い、職員全員の意見を反映できるように努めている。具体的な文言で、支援・評価しやすいように作成するよう心掛けている。	「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいを定期的に振り返る機会を設け、支援の質を向上できるように努める。また、イレギュラーも考慮した具体的な支援内容の設定も検討する。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	運動・SST・イベントの各担当者が原案を作成している。その後は職員全員で話し合い、共通認識でプログラム実施ができるように工夫している。	引き続き、各担当者が作成した原案を職員全員で話し合う方法をとる。また、各プログラムが児童および保護者の方のニーズや課題につながるかを一番に考える。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	同じ内容が続かないように計画を立て、新しい内容の検討を日々続けている。また、プログラムの進め方等については、適宜職員間で意見交換を行っている。	新しい活動プログラムを立案すると同時に、プログラムの進め方や声掛け等の話し合いおよび研修を行い、職員の支援スキル向上にも着目する。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	1	集団活動・個別活動にとらわれず、児童および保護者の方のニーズに合わせて、目標を設定している。	児童および保護者の方のニーズに合わせてうえで、集団活動・個別活動を明確化した計画を作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	2	朝礼にて、当日の活動内容や役割等の確認ならびに前日の振り返りを行い、支援内容の変更等についても検討している。	さらに支援の質を向上させるためにも、支援内容の確認や役割分担を細分化し、各支援内容に対して、より深く理解するよう努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	毎日終礼を行い、当日の支援内容の振り返りや学校や保護者の方からの情報共有をしている。また、それに対しての支援方法の改善を図っている。	引き続き終礼等で支援内容の振り返りを行う。また、ICT等を活用し気付いた内容や改善方法を迅速に共有できるように努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3	2	業務日報を作成し、日々の記録をとっている。必要に応じて職員会議を行い、その後の支援内容の改善につなげている。	職員会議の頻度を増やし、段階的に検証を行う。その後、検証結果をもとに、支援方法の継続や改善についての会議を行う。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	定期的にモニタリングを行い、保護者の方の意見を聴取したうえで必要に応じて見直しを行っている。	定期的なモニタリングの実施を継続する。モニタリング前後での職員会議を新たに開催し、支援内容についてさらなる連携を図る。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	0	「自立支援」「創作活動」「地域交流」「余暇の提供」について、安全面に留意しながら複数の活動を組み合わせ実施している。	特に「地域交流」の機会が十分ではないと感じるため、社会参加プログラムやボランティア団体との連携を検討する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	日々の中で、それぞれの児童に合わせて支援方法を変更し、児童自身が自己決定し自由に挑戦できる機会をつくっている。	日々の活動プログラムだけでなく、楽しく自己選択・自己決定する力を育めるようなイベントの実施等も検討する。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	日頃から各児童の情報共有に努め、関係機関等との会議については、管理者および児童発達支援管理責任者が参画している。	管理者および児童発達支援管理責任者を含めた全職員が各児童への共通理解をするために、会議の実施頻度を増やす等工夫する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	3	協力医療機関の設定や関係機関との連携フローについて作成し、常に連携できる体制を整えている。	地域とのつながりをより強化していくためにも、関係機関と連携をとる機会を増やし、必要に応じて迅速に対応できる体制をつくる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	当日の学校での様子については送迎時に情報共有を行い、保護者の方には学校での様子と併せて情報共有を行っている。	引き続き、学校や保護者の方と情報共有を綿密に行い、当日の児童の状況を適切に把握したうえで支援を行うよう徹底する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1	児童発達支援との連携は多く行っている。児童発達支援での様子を聞いたり、現在の様子を共有し相互理解に努めている。	児童発達支援だけでなく、保育所や幼稚園等との連携を増やしていく必要があると感じたため、今後必要に応じて連絡を行う。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	4	学校卒業には該当しないが、他放デイ事業所へ移行する際には必要な情報共有を行っている。	小学校1～3年生が対象のため学校卒業に係る機会はないものの、次の事業所へ移行する際には、必要な情報提供を行うよう努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	地域の児童発達支援センターとの連携は図ることができていないが、事業所内での研修を受ける機会を確保している。	外部の方に評価していただいたり、助言をいただく機会は重要だと感じるため、今後児童発達支援センター等との連携を行う。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	5	現在、放課後児童クラブや児童館との交流は行っていない。	今後、放課後児童クラブや児童館との交流の必要性について会議を行い、必要に応じて交流できる機会の検討を行う。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	0	5	現在、自立支援協議会へは参加していない。	自立支援協議会に参加し、知識・スキルの向上や福祉業界の横のつながりをもっと根強くつくる。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	1	送迎時や電話連絡にて情報共有を行っている。送迎時等に保護者と情報共有を行い、共通理解に努めている。また、知りえた情報は迅速に職員間で共有している。	送迎時や電話連絡にて、細かな情報共有に努めてはいるが、まだまだ十分とは言えない。送迎時や電話連絡での情報共有を引き続き行い、日頃の様子を聞き取れるように努める。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	送迎時や電話連絡の際に、口頭レベルでの説明を行っている。保護者の方に対する家族支援プログラムの実施は行っていない。	ペアレント・トレーニングをはじめとして、ご家庭でも活用できるような情報提供の機会を検討する。
保護者へ	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	書面を用いて見学体験時に支援プログラムについて、契約時に運営規程に係る内容や利用者負担額に係る説明を行っている。	引き続き、見学体験時および契約時に書面を用いて、丁寧な説明を行うよう留意する。
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	放課後等デイサービス計画の作成前に、保護者の方の意見を聴取し、計画および活動プログラムに反映するよう心掛けている。	児童本人の意思を聴取する機会を設けたり、保護者の方の意思を聴取する機会を増やすことでより適切な計画作成に努める。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	計画を作成した際には、児童発達支援管理責任者が直接保護者の方に説明を行い、署名による同意を得ている。	引き続き、書面を用いて支援内容等について保護者の方に丁寧に説明を行うよう心掛ける。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	相談があった際には保護者の方の意思を傾聴し、必要に応じて他機関との連携を図っている。	常に情報収集を行い、保護者の方からの相談があった際に対応できるように準備を行う。また、必要に応じて面談の機会を設ける。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5	現状、父母の会や保護者会については実施していないが、常に検討を行っている。	今後、父母の会や保護者会等の開催については引き続き検討を行う。

の 説 明 等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	苦情窓口を整備し、書面にて周知している。また、保護者の方からのご意見に関しては職員間で共有し、迅速に改善策を講じている。	引き続き、苦情窓口の開示に努めるとともに、児童や保護者の方からの苦情がないよう日々支援内容の検討・改善を行う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0	定期的に、Instagramやホームページを更新し、写真と文面を用いて活動の様子を発信するよう努めている。	引き続き、Instagram等で活動内容を発信するとともに、連絡体制等の情報公開についても検討を行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人情報の処分にはシュレッダーを使用するなど、個人情報を持ち出さないように徹底している。SNS等への写真掲載については、保護者に事前承諾をいただいている。	引き続き、個人情報の保護および管理を徹底する。また、適宜職員研修を行い、個人情報保護の大切さを再認識する機会を設ける。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	意思疎通については、視覚ボードを用いたり落ち着いて話せる時間の確保に努めている。情報伝達については、送迎時や電話にて活動の様子について話し、保護者の方との連携を適切に行うよう努めている。	レイアウト変更等、必要な環境整備については常に検討するとともに、情報収集および保護者の方に対する傾聴の姿勢を常に心掛ける。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	事業所主催の行事は実施していないが、地域のイベントに積極的に参画している。	引き続き、地域のイベントに積極的に参画するとともに、地域住民を招待できるような事業所イベントの検討を行う。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1	それぞれのマニュアルを作成し、職員間で周知している。また、それらに係る定期的な研修・訓練を行っている。	引き続き、各マニュアルに則った訓練を行い、必要に応じてマニュアルの修正を行う。また、その都度保護者の方に周知する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	非常災害用、感染症対策用の2種類の業務継続計画（BCP）を作成し、定期的な研修・訓練を行っている。	BCPを有事に適切に活用するために、必要な研修・訓練の機会増加について検討を行う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	0	見学体験時およびアセスメント時に確認している。当日の児童の状況については、口頭もしくは記録にて職員間で連携をとり共通認識を図っている。	引き続き、当日の児童の状況については、口頭もしくは記録にて職員間で連携をとる。また、服薬の変更等があった場合は速やかに情報共有を行う。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	保護者の方からの申告により食物アレルギーの有無を把握している。また、該当する食物を除去して提供するよう徹底している。	食物の提供に誤りがないよう、引き続き別々の箱を用意して視覚的に分けることで対応を行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1	安全計画を作成し、必要な研修・訓練を実施している。また、必要に応じて安全計画の見直しを行っている。	有事の際のシミュレーション等、十分でないと感じる点もあるため、法定の訓練回数にとらわれず、必要に応じて研修・訓練を行う。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1	緊急避難先等の情報共有を行い、避難訓練等の自衛消防訓練を実施した際は、Instagram等を活用して保護者の方等に周知している。	緊急時の避難方法について、状況別で分ける等詳細の取り決めを行い、周知する必要があると感じている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	事の大小に関わらず、終礼で事例の状況を細かく確認し、原因や次回以降の改善方法を考える等再発防止に努めている。	引き続き、終礼での共有を行う。その都度、迅速に改善を図る。その後、似たような事例が続く場合には再検討を行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	虐待防止研修および虐待防止委員会を定期的に開催し、必要な知識の習得や情報共有に努めている。	引き続き、虐待防止研修および虐待防止委員会を定期的に開催する。虐待防止に関して広い視点で考え、適宜情報共有を行う。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	身体拘束適正化についての研修および委員会を開催し、その必要性についての共通認識を図っている。実際に該当する児童はいないため、計画書への記載はしていない。	研修および委員会については引き続き定期的に行う。放課後等デイサービス計画への記載ならびに事前の保護者同意については、該当児童がいた場合は速やかに行う。	